

**和琴の自然
彩発見**

シジュウカラ
シジュウカラ科の小鳥で、日本各地に広く分布しています。背は黄緑、胸腹の中央には縦の黒色帯があります。

コグエ
森林にすみ、日本各地に広く分布しています。キツツキの一種で日本のキツツキ類では最小のスズメくらいの大きさです。

ミズバショウ
湿地や湿りのある原野に生育します。花の咲く時期は、4~7月草たけは40cm~80cmくらいです。

ニリンソウ
山野や林の日陰に生育します。花の咲く時期は4~6月で草たけは20cm~30cmくらいです。

オオバナノエンレイソウ
山すそや林のなかに生育します。花の咲く時期は4~6月で草たけは20~40cmくらいです。

エゾアカガエル
アカガエルでも独立した種類のエゾアカガエルは、山地や平坦な草地などで見られます。

和琴キャンプ場

和琴キャンプ場は、トイレや炊事棟は勿論、管理棟のログハウスにはシャワーやコインランドリーも完備されています。

和琴半島自然教室

今も活動を続ける火山である和琴半島では、火山の影響を受けてくらす不思議な生き物に出会うことができます。また、豊かな森、色とりどりの草花が訪れる人々を迎えてくれます。和琴自然教室では、このような動植物や散策のポイントを紹介しています。散策の前に是非お立ち寄り下さい。

開館:6月中旬~10月中旬 無料

●お問い合わせは●

環境省川湯自然保護官事務所
〒088-3465 北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-2 ☎ (015) 483-2335

(財)自然公園財団川湯支部
〒088-3465 北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-5 ☎ (015) 483-2567

「自然公園財団は、駐車場等の施設利用料により、国立公園の美化清掃や公園施設の維持管理を行っています。」

阿寒国立公園

和琴半島自然探勝路

**環境省
(財)自然公園財団**

和琴半島自然探勝路

ポイントガイド



1 とてもオープンな露天風呂

和琴半島のつけ根には、周囲に物かけのまったくないオープンな露天風呂があります。泉質は単純泉、無色透明なので底の砂地から気泡と一緒に温泉が湧いているのがわかります。神経痛・運動器障害などに効果があり少し熱めの43~44度です。



2 コバルトブルーの湖水

探勝路を進みながら湖水を見ると、コバルトブルーの何ともいえない色をしています。これは昭和13年の湖底地震以後、噴出物で水質が酸性になったため、その後魚はほとんどいなくなりました。最近酸度が落ち徐々に回復しています。



3 バンザイがトドマツ

和琴半島には、北海道を代表するトドマツが多く見られます。また、よく似ているエゾマツもありますが、区別するのは簡単です。一般的に枝が上向きなのがトドマツ、下がり気味なのがエゾマツです。「バンザイがトドマツ」と覚えましょう。



4 冬も休眠しないエゾリス

エゾリスは、フサフサした毛の大きな耳と冬も休眠しないのが特徴です。よく知られているシマリスよりもずっと大きく、灰色がかかった色をしています。広葉樹の枝の上でジッとしていることが多いので、探してみてください。



5 日本最北限のミンミンゼミ

北海道ではとても珍しいミンミンゼミが、ここ和琴半島に生息しています。暖候期には広く分布し、その後の気温低下で火山活動で地温の高いここに生き残ったと考えられます。日本最北限の生息地なので、国の天然記念物に指定されています。



時計まわりのコースが比較的ラクです。

6 冬に虫の声?

長い階段の横の斜面は樹木が生えていません。これは昔の硫黄孔の名残りで今もわずかに噴気があるため、特殊な植物しか生育できないからです。そのかわり地熱で冬も雪が積もらず、コオロギの仲間のマダラズスの鳴き声が聞かれます。



7 和琴半島は火山島

半島先端のオヤコジ地狱は噴気が上がり温泉も湧き、和琴半島が火山島であったことを証明しています。松浦武四郎がこの地を訪れた時、「東に向一ツ火坑有り、常に燃て黒煙噴出し其響きに聞ゆ」と記し、当時の活動の盛んさがうかがえます。



8 野鳥の楽園

和琴半島は野鳥の楽園で、特にカラとキツツキの仲間は一年中姿を見ることができます。カラ類ではシジュウカラ・ヤマガラ・ハシブトガラが、キツツキ類ではアカゲラがよく見られます。運が良ければクマゲラやヤマゲラも見られるでしょう。



9 和琴半島の春告花

和琴半島の春をいち早く告げるが、黄色のフクジュソウと青紫のエゼンゴサクです。これらの花は木々が葉をつけ林が暗くなるころには、来春までの長い休眠に入ってしまいます。このような植物は“春の妖精”という名で呼ばれています。



和琴半島辞典

■地形のおいたち

和琴半島は、今から1~2万年前の火山活動により屈斜路湖内にできた火山島に、土砂が堆積して湖岸とつながったものです。

■語源

アイヌ語でワコッチ(魚の尾のくびれたところ)と呼んでいました。大正10年この地を訪れた紀行作家の大町桂月が和琴という漢字に改称しました。

